

## 会 議 録

### 1 会議名

平成 27 年度第 3 回上越市地域公共交通活性化協議会

### 2 議題

#### (1) 報告事項

報告第 1 号 バスの日フェスタ 2015 の実施報告について

#### (2) 協議事項

議案第 1 号 上越市地域公共交通再編実施計画（案）について

### 3 開催日時

平成 27 年 11 月 25 日（水）午後 1 時 30 分から

### 4 開催場所

上越文化会館 4 階 大会議室

### 5 傍聴人の数

0 人

### 6 非公開の理由

なし

### 7 出席した人

委 員： 川上宏、大谷一人、鳥越元一、内山敏雄、板垣島美子、竹田幸則、常山哲  
（代理：有波修）、伴孝之（代理：三五紀男、オブザーバー：山崎勉）、  
岩井文弘、横田智、白砂千佳、渋谷聡、小口幹久

事務局： 金山課長、布施副課長、池田係長、武藤主事、矢端主事、武田主事（新幹  
線・交通政策課）

## 8 内容

### 1 開会

(事務局)

ただ今から、平成27年度第3回上越市地域公共交通活性化協議会を開催いたします。

本日は、お忙しい中、委員の皆さまからお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、報告事項が1件、協議事項が1件あります。

本日の出欠状況につきましては、お手元に配布させていただきました名簿にてご報告に代えさせていただきます。

続きまして、資料の確認をお願いします。

あらかじめ送付いたしました資料は「議案書」、「資料1-1」、「資料1-2」、「資料2」です。

本日お手元に用意いたしました資料は「次第」、「タクシー事業の概要について」、「えちごトキめき鉄道 平成27年度上半期の収入状況と乗車状況について」です。その他にチラシ、ガイドブック、時刻表なども用意させていただきました。よろしいでしょうか。

### 2 挨拶

(事務局)

それでは、議案書1ページの次第に従いまして会議を進行いたします。

はじめに、川上会長から挨拶をお願いします。

(川上会長)

本日はたいへんお忙しい中、第3回の協議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

11月も残りわずかになってまいりましたが、北陸新幹線の長野金沢間が開業いたしまして8か月が過ぎました。私ども市で独自に調査したら、1日平均の利用者を概ね3,000人から3,500人くらいと想定していましたが、平日でも3,800人から4,120人の利用が見られ、順調に推移しております。

11月のシルバーウィークにつきましても、1日平均6,700人からご利用いただいております、特に北陸、関西方面の利用者が多いと感じております。

同時に3月に開業しましたえちごトキめき鉄道さんや北越急行さんにおかれましても、前年計画対比で5%から7%くらいの利用増と順調に推移しているとお聞きしております。バス事業者さんにつきましても、改めてこの後会議の中で現状についてご紹介いただければありがたいと思っています。

えちごトキめき鉄道さんにおかれては、東京からの最終のダイヤへの接続が悪いという意見があり、10月に北越急行さん、JRさんと連携する中で最終のダイヤを調整いただいて、上越妙高駅から直江津へ行く、また、直江津からも接続があるように接続いただきありがたいと思っています。また、それぞれの鉄道事業者さんにおかれても様々な利用促進に取り組んでいただいております、たいへん感謝を申し上げます。

これからいよいよ降雪期に入りますが、それぞれ事業者の皆さまにおかれましては、冬期の万全の体制を備えておられるとお聞きしていますが、利用者の皆さまを安全、安心に輸送できるよう最大限のご努力をお願いしたいと思います。

さて、来年の3月にはまたダイヤ改正があるかと思えます。基幹となります北陸新幹線のダイヤ改正、これに合わせて、鉄道、バス、たいへん好評であります小木-直江津航路のあかね、乗合タクシー、いろいろありますが、ぜひとも次回のダイヤ改正に合わせて、可能な範囲できちんと接続して、利用者の皆さまの利便性の確保に向けた交通ネットワークを作っていただきたいと思っております。たいへんな時期ですが、事業者の皆さまにお骨折りいただきたいと思っております。

私もこの協議会で昨年、上越市の総合公共交通計画を作成いただいたわけでございます。大切な生活交通、二次交通をきちんと維持確保していくための計画です。本日は、それに基づく実施計画を皆さまからご協議いただきたいと思っております。生活交通は市民の皆さまにとって大事な足ですので、皆さま方からご努力、ご配慮いただいて、きちんと守っていかねばいけないと思っておりますので、皆さま方から忌憚のないご意見を頂戴したいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いたします。

(事務局)           ありがとうございます。

続きまして、次第の「3 報告事項」に移ります。

ここからは、会則第8条第1項の規定に基づきまして、会長から議長を務めていただきます。よろしくお願いたします。

(川上会長)           それでは、しばらくの間議長を務めさせていただきます。

それでは、本日の会議の出席でございます。名簿をお配りさせていただいていますが、出席委員数につきましては、代理出席も含めまして13名です。会則に基づき本会議は成立していることをご報告いたします。

### 3 報告事項

(川上会長) それでは、次第「3 報告事項」に移ります。  
報告第1号「バスの日フェスタ2015実施報告について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局) (議案書3ページ、資料1-1、資料1-2により説明)

(川上会長) それでは、今ほど説明のありました報告第1号につきまして、ご意見、ご質問等ございましたお願いします。

(川上会長) よろしいでしょうか。  
それでは報告第1号につきましては、原案のとおり承認することによりよろしいでしょうか。

(委員から異議なしの声)

(川上会長) ありがとうございます。よって報告第1号につきましては、原案のとおり承認されました。

### 4 協議事項

(川上会長) 続きまして、次第「4 協議事項」に移ります。議案第1号「上越市地域公共交通再編実施計画(案)について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局) (議案書4ページ、資料2より説明)

(川上会長) ありがとうございます。  
今ほどの事務局の説明の実施計画案の概要につきまして、ご意見等ございましたらお願いいたします。

(三五委員代理) 計画自体は素晴らしいものだと思いますが、2、3点お聞かせ願います。

交通拠点を考えているところですが、これについては既存のところをそのまま使うということによりよろしいでしょうか。それとも改良を加えてバスターミナル的なものにしていくとすると、どういうことがあるのでしょうか。

また、ネットワークを作る際に、今までは直接行けたところが、乗り継ぎ等が出てくるというようなかたちになるのか、その辺を聞かせていただきたいと思います。

(事務局) 交通拠点につきましては、既存の使われている施設を使いたいと考えております。現在直江津の路線バスの拠点であれば、イトーヨーカドー前の停留所が路線バスで多く使われているところです。今まで個別に路線を引いてきた経緯がありまして、たとえば高田駅に全ての路線が乗り入れてないとか、直江津駅に片方しか乗り入れてないとか、後ほどご説明させていただくところでもあるのですが、拠点へアクセスできていないというところがありましたので、そこへきちんとアクセスできるように定めていくという意味の交通拠点というものです。新しく上屋を作るとか、すばらしい停留所を作るといったものではありません。

乗り継ぎにつきましても、面的な交通ネットワークを作るとなると、少なからず乗り継ぎが発生してくると考えております。今までも、安塚区や板倉区で階層化を実施した時には、乗り継ぎが発生しましたが、このような場合には割引券を発行するとか、乗り継ぎの待ち時間が短くなるようにダイヤを組むとか、乗り継ぎの負担を解消してきたところです。

今後、面的な交通ネットワークを作るにあたりましては、今までは鉄道は鉄道、バスはバスで話が終わっていたようなところもあると思うのですが、今後鉄道と路線バスの接続を配慮しながら移動のネットワークを組んでいければ良いと考えています。

(三五委員代理) ありがとうございます。

今、乗り継ぎが新たに発生するということですが、先ほどのご説明の中で、地元の方や利用者の方の意見を聞きながらやられていることでしたので、ぜひ丁寧にやっていただければと思います。

ご存じのように、新潟市で今年の9月から新交通バスシステムということでバスの再編が行われていますが、新聞等を見るとやはり乗り継ぎの不便さというものが、皆さまの不満が大きいということが実態のようですので、そこを丁寧にやっていただければと思います。

(川上会長) ありがとうございます。

他にございますでしょうか。

(内山委員) 資料2の8ページ、路線バス等の利用者数の目標達成の欄ですが、5年後1,561千人を予定しているということですが、右の

ページを見ますとこの5年間で毎年5万人、21年度と25年度を比べると25万人も減少しているということであります。これからの少子高齢化を考えますと、かなり頑張っている数字ということで、かなり努力しないと難しいと考えています。

もう一点、高齢化のことになりますと、団塊の世代の方はほとんど免許を持っているため、この数字はかなり厳しいので、ギャップが無いようにやっていただきたいと思います。

それから収支率についてですが、これは営業収支率ですか、それとも経常収支率ですか。これに関連して、この収支率は頸城自動車さんだけなのか、それとも自家用有償運送を含めた決算額なのか教えて下さい。

(事務局) 2点のご質問で、まず目標の路線バスの利用者数です。非常に厳しい目標値を昨年立てさせていただいたと考えております。今、高齢者の人口の動態とか免許の保有割合を見ながら、31年度にこのまま推移すると、どのくらいの輸送人員になるかはじいているところです。そこをきちんと明らかにしながら今のままで行くとどれくらい足りないか、目標値を達成するためにはどんな利用促進をしていこうかと、そういった観点からも分析をしているところで、なかなか厳しい目標だと思うのですが、現在の傾向からつかんだ、将来の推計と目標の乖離について利用促進を図るといったところをきちんと分析をしなければと考えています。

2点目の公共交通の収支率は、経常費用と経常収入で計算をした割合です。これを計算する時には、補助金で運行している路線全てを入れて計算していますので、自家用有償運送は含んでいない収支率です。

(川上会長) よろしいでしょうか。

目標値を設定した時と、またさらに進んでいる部分もあります。利用促進の話は後ほどの勉強会の中で出てこようかと思えます。高齢者の事故防止も含めた中での路線バス等の利用促進。それから高齢者の元気な方が、ぜひともバスに乗っていただいで少しでも移動していただいで、社会生活をきちんとしていただくことによって、健康寿命が延びるというような取組もしていかなければいけないという事で、それぞれ取り組んで頂いている部分もあります。そういったものをさらに進化させていく、パワーアップしていけたらと思っておりますので、それはまた次のところでご協議いただけたらと思っております。

他にございますでしょうか。

(岩井委員) 1 ページの表 3 番のところに、意識醸成の問題が上がっていたと思います。その中でモビリティマネジメントの実施とありますが、内容について説明していただければと思います。公共交通を活性化していくためには、車に頼っている交通手段をなんとか公共交通の方に向けなければならないという思いでいますので、今後どのようにして市民の足を公共交通に向けるかということでご説明頂きたいと思います。

(事務局) モビリティマネジメントの定義は、ひとりひとりの移動が社会的にも個人的にも望ましい方向へ自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通政策と言われております。簡単に言いますと、公共交通はどういった利点がありますかというのを伝えた中で、その人が自ら公共交通を選んでいただくと、そういった変化を起こしましょうというのをモビリティマネジメントと言います。

今日お手元に「公共交通のススメ」というチラシを配布させていただいたのですが、このようなツールを作成しまして、バスのイベントですとか、交通懇話会とか、機会に応じて皆さまへ資料を提供させていただいています。市民の生活の足を守るために公共交通が必要ですよということや、実はダイエットにも役立ちますよといったこと、高齢者の交通事故が増えているので交通事故防止をしていく、そういった観点からも必要ですよといった内容です。

こんな啓発資料を皆さまから読んでもらって、考えてもらって、自ら公共交通を少しでも多く使いましょうといった流れにしていくというのをモビリティマネジメントと言います。利用促進としましては、使っている人は運賃が高いとか、本数が少ないということになりますが、使っていない方につきましては、どうやったら使ってもらえるか、きっかけといったところの手段としてこういった啓発というのは有効と考えているところです。

(川上会長) よろしいでしょうか。  
他にございますでしょうか。

(渋谷委員) 1 ページにあります対象事業のアンダーラインが引いてある

ところで、この計画の対象が広域的な交通を担う鉄道と佐渡汽船を除く路線バス、乗合タクシー、自家用有償旅客運送ということになっているのですが、鉄道と佐渡汽船はこの計画から除外しますということでもよろしいですか。高速バスはどうなのでしょう。

(事務局) 高速バスも抜けていましたので、対象から外したいと考えていまして、地域の公共交通を対象にしたいと考えております。

(川上会長) よろしいでしょうか。  
他にございますでしょうか。

(川上会長) 計画の素案という事の説明になりますが、方針がこれからの計画を作っていく上で大事になります。路線バス等になろうかと思いますが、この中で拠点は分かるのですが、観光という視点は無かったのでしょうか。拠点というのが交通拠点でありまして、そこは分かるのですが、経路の中に観光地が含まれているという考え方でよろしいでしょうか。

いろいろな公共施設、基幹病院、商業施設とか学校とかあるのですが、そういうものも含んでいるということで理解すればいいのかどうか説明をお願いしますか。

(事務局) 観光地につきましては、拠点にはなりえないというところで記載しておりませんが、拠点と拠点を結ぶ線の交通ネットワークの中では当然盛り込む点です。

上越妙高駅から出発している「ぶらっと春日山・高田号」もありますが、高田地域、高田公園への移動ですとか、春日山駅周辺にあります春日山地域への移動も、ネットワークの中で拾っていくということで考えていきたいと思っております。

(川上会長) それもどこかで分かるようにしていただければと思います。生活の部分も大事ですが、二次交通という使命も担っている部分もありますので、その事を頭におきながら、これから再編計画の方も検討していただければと思います。

(川上会長) 他に無ければ、この実施計画素案のご承認をいただいて、今日勉強会もさせていただきますが、次回から再編の内容に入っていきたいと考えております。

本日のこの素案につきまして原案のとおり了承することによ



ろしいでしょうか。

(委員から異議なしの声)

(川上会長)           ありがとうございました。

ご異議なしということですので、議案第1号につきましては原案のとおり承認されました。今後の路線の再編につきまして、この方針に基づき検討をさせていただきたいと考えております。

以上で予定をしておりました議題につきましては終了いたしました。

せっかくの機会ですので、委員の皆さまから、新幹線開業して8か月が経過していますが、これまでの交通事業者さんの状況につきまして、ご説明いただければありがたいと思っております。順番によろしくお願いいたします。

最初に、北越急行の大谷委員からよろしくようお願いいたします。

(大谷委員)           北越急行の大谷と申します。このような時間を設けていただいてありがとうございます。

北陸新幹線が開通して8か月になります。新幹線のお膝元にはえちごトキめき鉄道さんがありまして、当社は今回特急「はくたか」という北陸へ行っていたドル箱の路線が無くなりました。普通列車だけになり、どうなってしまうのだろうと危惧しておりましたが、普通列車だけで比べますと対前年で25%くらい増え、たいへんありがたいと思っております。

「はくたか」が無くなっても今まで「はくたか」ご利用いただいた方が普通列車でもいいのかという形で、一部の方はほくほく線を利用していただけるだろうという推計をしておりました。そういう推計を入れた私どもの計画値と比べますと、若干それよりも上回って今のところを推移しており、たいへんありがたいと思っております。

えちごトキめき鉄道さんも、私どもと同じように先日の新聞記事にそのような状況が出ていましたが、ほくほく線も同じように、当初計画していたよりも多くお客様に乗っていただいております。ほくほく線沿線では、十日町地域で「大地の芸術祭」という3年に1度のイベントが開催されていたものですか



い人数と理解しております。路線別に見ますと、運行本数の多い中央病院から新井までの路線の利用が最も多く、特に上越妙高駅から高田方面への利用が多くございました。

佐渡汽船の直行便ですが、4月からの累計で約6,200人となりました。

「ぶらっと春日山・高田号」は1日乗り降り自由ですので人数はなかなか測りきれないのですが、発売した乗車券の枚数が、約700枚でございます。

現在の利用状況は以上のようになっています。

(川上会長)            ありがとうございます。

続きまして、ハイヤー協会会長の内山委員からお願いいたします。

(内山委員)            お手元に資料ございますが、タクシー事業というのは、平成14年2月の規制緩和抜きには話せない内容です。これが大きな経緯となったと資料に書いてあるとおりですのでご紹介させていただきます。

ここで大きく変わりましたので、平成13年の車数を100といたしますと、営業車数が14年に増えたということになります。平成23年に再規制がありまして、現在は、当時よりも車数が19台少なくなって、平成13年に比べて91.7%。輸送実績はさんたんたるもので、平成13年の規制緩和前を100といたしますと平成26年度は62.8%ということで、38%も輸送実績が減っています。

北陸新幹線開業後の7か月をみますと、高田地区と直江津地区が大きく様変わりしました。今までは直江津地区が高田地区に比べて5～6%多かったのですが、新幹線の影響を受けて高田地区の3社で運行回数によっては3%、7か月で6,200回ほど増えましたし、輸送人員も2.6%、7,900人くらい増えております。おかげさまで輸送実績も高田地区は約5%、何年かぶりに前年対比上回ったということです。

直江津地区においては、逆に運行回数も10%、同時に運行人員も10%、輸送実績も10%とかなり大きく減収しております。なかなかこれからの事業経営は難しいというようなことも考えております。

次のページに、観光の実績表が書いてあります。これは、上越観光コンベンション協会と連携しまして、上越観光コンベンション協会がJTBさんに契約していただいて出した実績ですが、4月から10月まで、上杉謙信を中心とした春日山観光は13

回、それに対して妙高市、これは主にいもり池や苗名滝の観光ですが3倍の33回、その他に佐渡汽船直行便が56回です。この他に事業者がそれぞれにPRして観光などで対応しておりますので、これに4%から5%くらい増えると考えております。昨年と比較しますと、今までの上越の観光というものは、タクシーに限ってですが、佐渡汽船の帰路、直江津駅からだいたい1時間から2時間くらい電車待ちがあります。これを春日山観光にあててもらいまして、7か月で昨年は240回ほどありました。

今年の傾向は、佐渡汽船からの帰路、電車が1時間おきにあるので観光利用が1回もないという結果になっています。観光があったのは、上越妙高駅からということになっております。妙高高原への観光が71%、上越観光コンベンション協会の宣伝パンフレットを作っていただいた時に、妙高市の観光協会に非常に頑張ってもらって、ほとんど資料をもってもらいました。上越市にもお願いしたのですがゼロでした。観光のパンフレットの内容そのものが3分の2くらい妙高の宣伝になっておりましたので、来年もう少し魅力あるようなものをPRできればと思っています。

お客さんは自然相手で雄大なものに魅力を感じるのかなと思います。観光名所一つだけでもそこに行くのですが、上越妙高駅から春日山へ観光に行くかと言えば、インパクトがありお金をかけても見るだけの価値が少ないというようなことも言われていますので、なんとか春日山へ来られれば良いと考えております。

(川上会長)           ありがとうございました。

えちごトキめき鉄道さんは都合がつかなくて欠席いただいております。資料を頂戴しているようですが、事務局で説明できますか。

(事務局)           (資料 えちごトキめき鉄道 平成27年度上半期の収入状況と乗車状況についてにより説明)

(川上会長)           ありがとうございました。  
他にございますでしょうか。

(三五委員代理)       警察本部交通規制課の三五と申します。よろしく願いいたします。

皆さまのお手元に、高齢者事故及び高齢者加害事故平成26年版という資料を配布させていただきました。26年度の内容について当県警の交通企画課というところで、まとめたものがございます。詳しくは持ち帰って見ていただければと思うのですが、最後の7ページを見ていただきますと、統計から出てくる分析結果、まとめが書いてあります。

高齢者の交通死亡事故は、10月から12月の間に多発、特に歩行中の死者が多いです。歩行中の死者は夕暮れ時間が早まる10月から12月の16時から20時までに集中しています。自宅近辺の道路横断中に車両と衝突事故が多く、事故中の服装は暗く、反射材の活用が無いという特徴が出ております。

皆さまにお願いしたいのは、反射材等活用していただき注意していただく、またこういう時間帯には事故が起こりやすいということを頭に入れておいて安全運転をしていただいて、事故防止していただけるようにお近くの方にお話ししていただく、また会社等の方には書面や何かの機会にひとこと注意していただければありがたいと思います。

ぜひ参考にしていただいて、事故防止へご協力をよろしくお願いいたします。

(川上会長)            ありがとうございました。

予定させていただいたものは全て終わりました。せっかくの機会でございます、委員の皆さまから、今ほどのご説明を含めて、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

(岩井委員)            本日、えちごトキめき鉄道さんは参加されていないという事ですが、直江津から糸魚川、能生の方と、直江津から新井、妙高の方ですが、JRから分離されてえちごトキめき鉄道さんになったわけです。その中で疑問に思ったのは、例えば柿崎だとか、上下浜、土底浜というところで高田や新井に行こうと思って券売機にコインを入れるわけです。ところが、そちらの切符が販売されるようになっていません。柿崎とか上下浜で買う場合は、いったん直江津まで買って直江津からさらに新井だともう一枚買うのでしょうか。料金はどうなっているのか。お分かりの方がいらしたら教えていただきたいと思います。

(事務局)            柿崎駅、上下浜駅から高田駅までのJRとえちごトキめき鉄道をまたいだ切符を購入できないというご指摘です。柿崎駅につきましては、確認したら買えました。ただし、券売機で「え

ちごとキめき鉄道」というボタンを押さないと画面が変わらないので、その辺の操作が複雑かと思えます。

上下浜駅においては、えちごとキめき鉄道の切符を買えないことを確認しております。これにつきましては、課題だと思っています。現在どうするかといいますと、上下浜駅の場合ですと直江津駅までの切符を買って、高田駅に着いたら直江津から高田までの区間の差額を清算するというやり方で、券売機にそういうメッセージのボードが付いているようです。券売機にいくつかボタンが付いているのですが、使っていないボタンもあります。ボタンの数も限りがあるので全部というのは難しいかもしれませんが、高田、上越妙高、新井など利用の多い駅についてはボタンをつけてくれないかということでJRの働きかけをしていきたいと考えています。市民の皆さまから意見があったという事で、JRに対して強く要望していきたいと思っています。

ほくほく線の駅ですと、たとえば黒井駅、浦川原駅の券売機では確実に高田駅、上越妙高駅まで買えるという状態になっていますので、技術的に問題があるということではありませんので、改善するようにJRに意見を伝えていきたいと思えます。

(岩井委員)            ありがとうございました。

私も他の乗客の方から、上下浜駅、土底浜駅の券売機で高田駅までの切符は買えないと不便という意見があったので伝えました。列車の乗り継ぎに関しては、非常に便利で、すぐ乗り継ぎができるのでありがたいという意見がありました。できるだけ不便が少なくなるようにお願いいたします。

(川上会長)            他によろしいでしょうか。

新幹線のダイヤも変わってまいります。鉄道事業者の皆さまのダイヤも検討されていますが、すべてパーフェクトにいかないのかもしれませんが、可能な限り接続を考えていただきたい。それを受けながら路線バス、直江津港とか様々な機関の拠点とを結ぶようなネットワークを、きちんと考えていただきたいと思っています。

ある方から、夕方の小木直江津航路で直江津に到着しても、シャトル便だと上越妙高駅へ直接行ってしまうので、できたら直江津駅に寄ったり、あるいは直江津駅から新潟の方に帰って行きたいというようなお声も頂戴しております。その辺のネットワークも、できればバスのダイヤの中で佐渡汽船と接続する

ようにしていただければありがたいという声も頂戴しております。いろいろなお声もいただいておりますので、事業者さんは十分承知されていると思いますが改善に配慮いただきたい。岩井委員からご指摘もいただきました、これにつきましてはJRの方へ私どもでも改めてお願いしていきたいと思っております。

市民の皆さまからいただいているものをまとめて、事業者の皆さまにお伝えしていきたいと思っております。

タクシー協会さんから、上越市のパンフレットですとか、いろいろご指摘も頂戴いたしました。担当の部局と連携を取りながら、そういうことにならないようにしていきたいと思っております。来年はNHKの大河ドラマ「真田丸」ということで、会議所さんからも、力を合わせて取組んでいただいております。春日山も復活するような形でなんとか取り組んでいきたいと思っておりますので、ご協力をよろしく申し上げます。

予定した協議題はこれで終了させていただきます。

たいへんありがとうございました。これにて議長の任を解かせていただきます。

(事務局)            ありがとうございました。

事務局から1点、「バスロケ」始めますというチラシを説明させていただきます。

(KCS)            株式会社KCSの宇野と申します。現在、上越市さんの再編実施計画の作成をお手伝いしております。また、12月1日から2か月間、板倉方面のバス路線を対象に、国土交通省北陸信越運輸局の調査事業であります「バスロケ」を業務受託させていただきます。このたびは「バスロケ」について私から簡単に説明させていただきます。

「バスロケ」は降雪期など、バスが遅れた際に停留所に行かなくてもスマートフォンで、あるいはパソコンでバスがどこにいるのかわかるようなサービスです。

パンフレット右側にスマートフォンの絵がありまして、その下にQRコードというのがあります。QRコードを使えばと、12月1日からここに案内をさせていただきます。これを2か月調査し、皆さまに役に立つかどうかを確認しながら、こういったことでバス離れがなくなっていけばということ念頭において進めていきますので、よろしく願いいたします。

5 その他

(事務局)

ありがとうございました。

本日は慎重審議いただき、ありがとうございました。協議会の開催にあたり、開催案内や会議録をメールで送付させていただくように変更しましたが、ご不便などがありましたら事務局までご連絡いただきたいと思います。

次回の協議会につきましては、再編実施計画の具体的な内容についてご審議いただきたいと思います。12月24日木曜日で調整しています。あらためて書面でご案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。

また、本日の議案やその他に気付いたことがありましたら、意見シートを活用いただき、事務局へメール、ファックス等で連絡いただければと思っています。

6 閉会

(事務局)

以上を持ちまして、平成27年度第3回上越市地域公共交通活性化協議会を閉会いたします。

本日はありがとうございました。

以上